介護老人保健施設　しおさい

症　例　概　要　ご利用者　：90代　男性　要介護2

病　　名：慢性腎不全・腰部脊柱管狭窄症・胆嚢炎

利用サービス：令和5年2月　～　長期入所

経　　過：肺炎・胆嚢炎の診断で入院。入院加療中にバンコマイシン耐性腸球菌保菌し、ご自宅での生活困難となり、長期入所となった。活動性低下を認めたため、日々の生活に楽しみを作って欲しいと考え、プライマリーナースを中心に他職種カンファレンスを実施。奥様へ手紙の返事を書くという目標を見つけ、日々の輝きのひとつとなる行動変容をもたらした症例

内　　容

入所時より、他ご利用者との交流が少なく、目を閉じて過ごされることが多く見られました。職員で共有し声掛けしましたが言葉数も少なく、すぐに会話を閉ざしてしまい、表情も暗い印象でした。相撲観戦がお好きであると伺っていたので、相撲雑誌やテレビ鑑賞を勧めますが、関心を持てないご様子のため、日々の生活の中に楽しみや、生きがいを感じて欲しいと考えました。多職種カンファレンスを行った際に、ご面会時に奥様より多くのお手紙がご本人に渡されていましたが、読まずに保管されていることがわかりました。幸せホルモンの活動を通じ、その方の思いや生き方だけでなく、ご家族の思いを知る大切さを学んだので、まずは、ご家族の思い溢れたお手紙を整理し、ご本人にお渡しさせて頂きました。お手紙の中には多くの思い出と、ご本人を思う奥様のお気持ちが沢山綴られており、それを長い時間をかけて読まれる様子が印象的でした。ご本人にお手紙について尋ねた際には、思い出や、生い立ち等たくさんお話しくださり、お話しする際の表情はとても明るく活き活きとしており、ご本人の新たな表情、一面を知ることができ、この表情を沢山引き出したいと思いました。お話しの中で奥様とお付き合いされていた際は手紙でやり取りをしていたと話して下さったので、奥様のお手紙にお返事を書いてみてはどうかと提案させて頂きました。書きたいけど字が書けなくなっているから書きたくないと仰ったため、リハビリスタッフと情報共有し、まずは活字の練習から勧めてみると、照れた様子で「頑張ってみようかな」と承諾して下さいました。名前の練習から開始し、始めは自信が持てず、やりたくないと、拒否されることも多かったですが、日々の取り組みを職員で共有し、前向きな声掛けを実施。数日後には、ご本人より模写ならやれるかもと自ら提案をして下さいました。その後は、目を閉じ休まれている姿より、活字練習に取り組む姿を多く拝見することができました。練習を重ねる中で、自発的に「今日は晴れていますね。」「穏やかな日々を過ごしています」と誰かに宛てたお手紙を書かかれていため、声掛けをすると照れた様子で「手紙を書いてみようと思う」と話して下さいました。その後改めて手紙を作成し、奥様への手紙を完成することが出来ました。後日奥様へお渡しをした際は、「手紙なんて何十年ぶりだろう」とご家族も大変

喜ばれ、照れながらも温かい笑顔を見ることが出来ました。その後も文通され、現在、ご本人から4通送ることが出来ました。入院中からVRE保菌者のため隔離されていたことや、接触感染対策で制限のある生活から、施設へご入所されたことで感染対策を取りながらもその人らしさを大切にした日常の中で「手紙」というツールを用いてご家族の思いも感じることが出来、日々の楽しみへとなっています。これからもどんな症例の方にも寄り添いのケアを実施し、小さな幸せ探しのお手伝いをさせていただきたいと思いました。